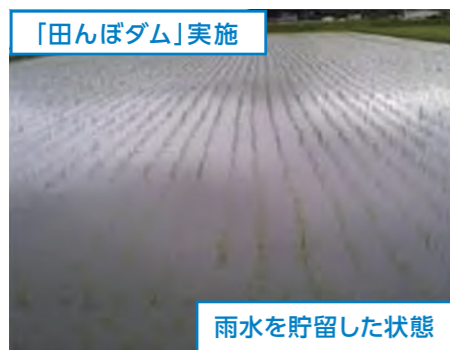
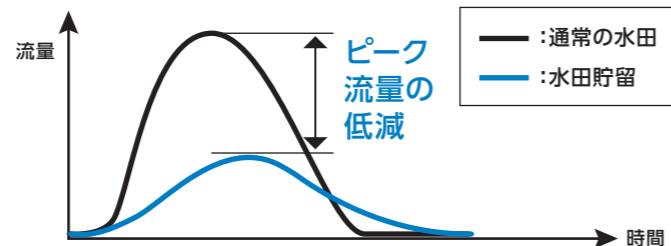




「田んぼダム」の効果

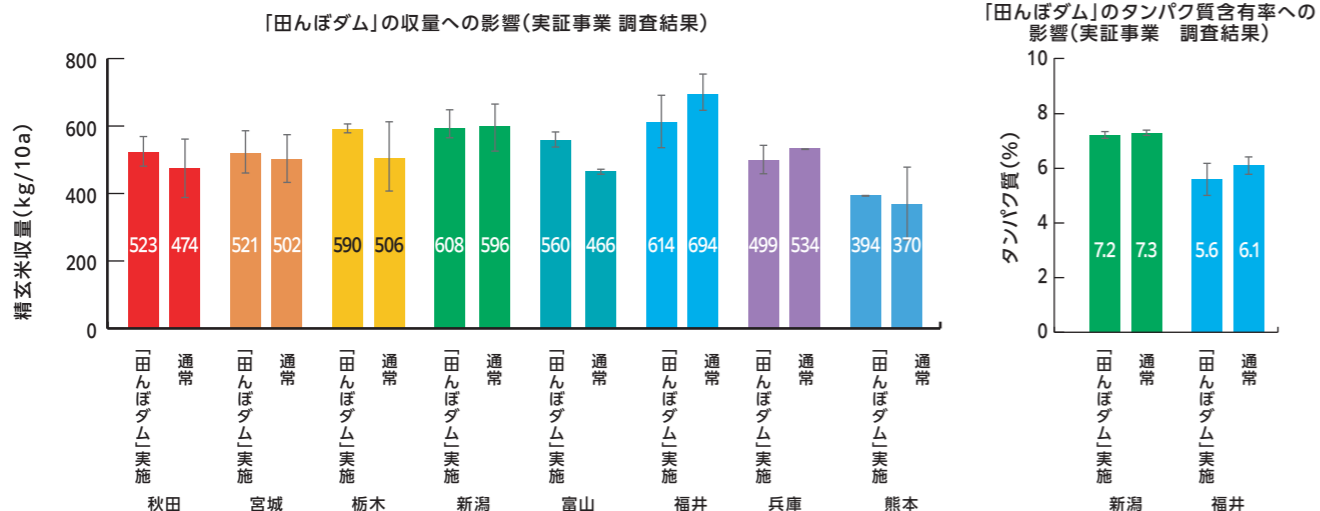
田んぼに降った雨水を時間をかけてゆっくりと排水することで、流出量のピーク(最大流出量)を抑制し、周辺の農地や住宅の浸水被害を軽減できます。



出典:「田んぼダム」の手引き 令和4年4月 農林水産省 農村振興局 整備部

営農への影響は？

全国で行われている実証事業より、収量・品質に明らかな影響は確認されない結果が得られています。



出典:「田んぼダム」の手引き 令和4年4月 農林水産省 農村振興局 整備部

地域で取り組む「田んぼダム」

～田んぼの水をゆっくり流すことで、地域の浸水被害軽減に繋がります～



和歌山県PRキャラクター「きいちゃん」



[田んぼダムの推進に関するお問合せはこちら]

和歌山県 県土整備部 河川下水道局 河川課

和歌山県 農林水産部 農林水産政策局 農業農村整備課

Tel.073-441-3134

Tel.073-441-2940



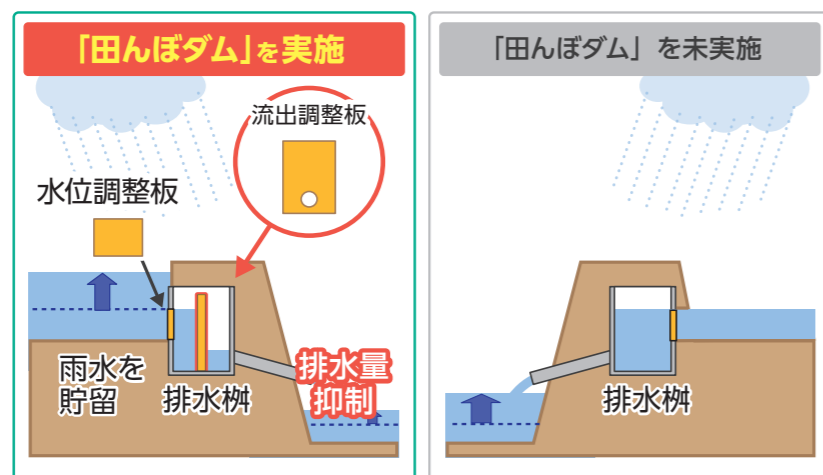


「田んぼダム」とは？

本県では、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、従来の河川整備に加えて、流域に関わるあらゆる関係者(国・県・市町村・企業・住民等)が協働して、水災害対策を総合的かつ多層的に取り組む「流域治水」を進めています。流域治水の取組の一つとして「水田貯留(田んぼダム)」があります。

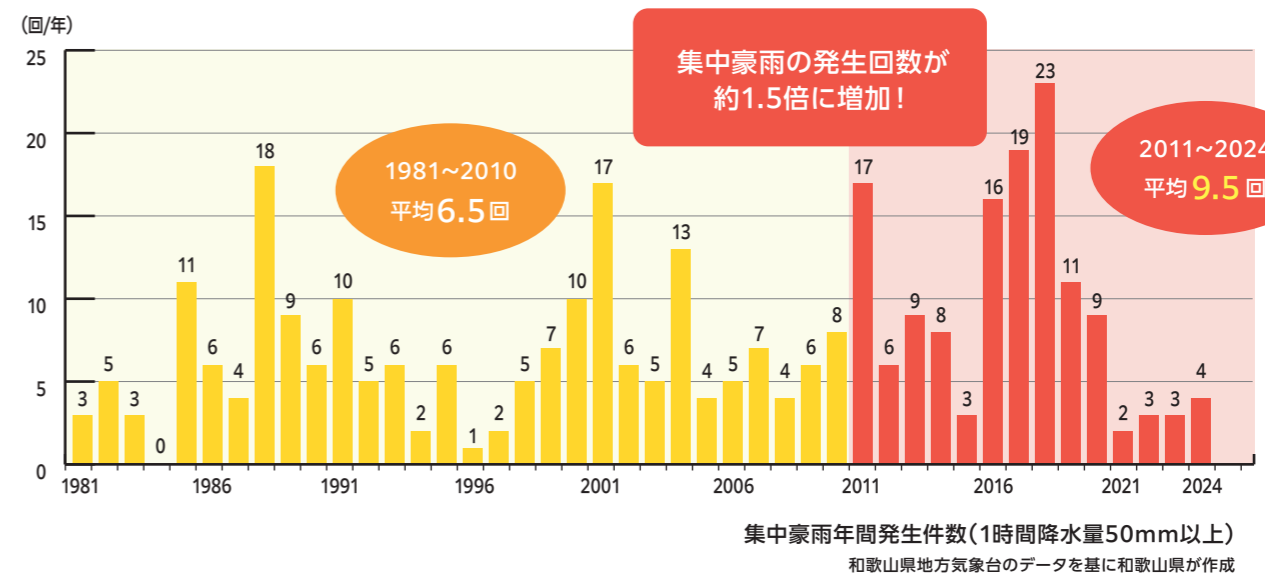


田んぼの落水口に流出量を抑制するための堰板や小さな穴の開いた調整板などの器具を取付けることで、田んぼに降った雨水を時間をかけてゆっくりと排水し、水路や河川の水位上昇を抑えることができます。

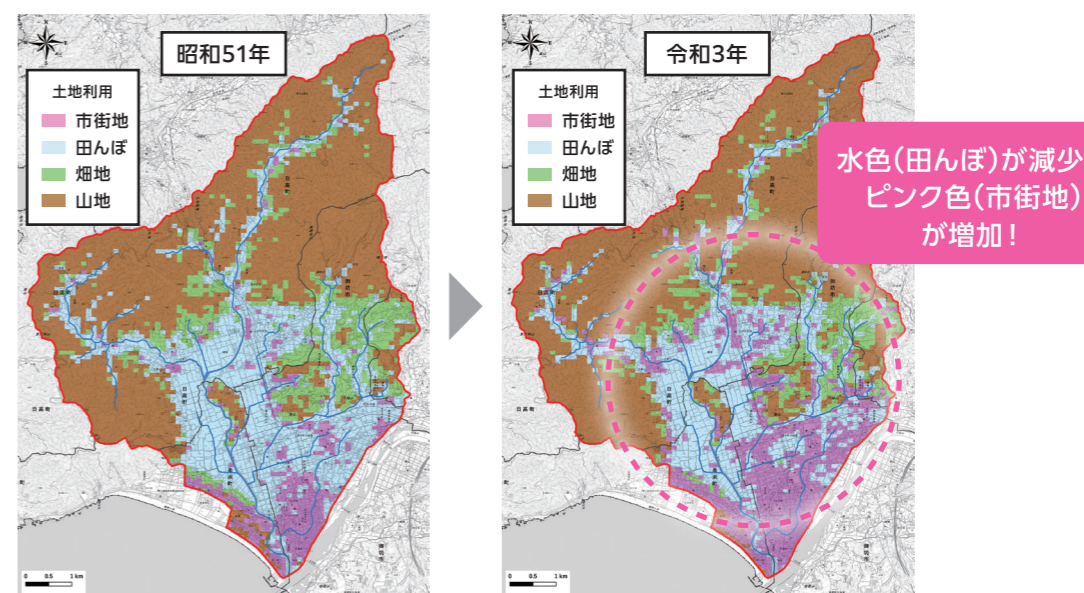


なぜ、田んぼダムが必要なのか？

近年、全国的に気候変動の影響により大雨による水災害が激甚化、頻発化しており、和歌山県においても同様の傾向が見られます。



一方で、県内各地で土地利用の変遷により、保水力のある田んぼ等の農地が減少し、宅地が増加傾向にあります。宅地化が進むと保水力の低下に繋がり、大雨時には、**雨水が一気に流出**することで、**浸水被害のリスクが高まっている**と言えます。営農に支障のない範囲で田んぼに降った雨を**一時的に貯留し、ゆっくりと排水する田んぼダムの取組**が地域の浸水被害軽減に効果的です。



県内のある地方の土地利用の変遷状況(昭和51年から令和3年)